

# 第3章

## 「サポートヒントシート(追補版)」の活用と授業のアイデア

本章では、「サポートヒントシート（追補版）」について、「サポートヒントシート（追補版）の活用の仕方」と「サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア」を掲載しています。

「サポートヒントシート（追補版）の活用の仕方」では、活用例や注意事項、実際の使い方、個別の指導計画等への記載について解説しています。

また、「サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア」では、具体的な配慮の仕方や授業のアイデアについて、写真を用いながらイメージしやすいように解説しています。

本章を読むことで、当該学級の児童生徒の実態に応じた授業づくりのイメージをつかむことができます。



# サポートヒントシート（追補版）の 活用の仕方



## サポートヒントシート（追補版）の活用の仕方

### サポートヒントシート（追補版）を使う前に…

サポートヒントシートを使う前に、本時の「授業構想」や日々の授業づくりの基礎となる「授業基盤」「授業運営」について振り返ってみましょう。p 68・70に掲載しているユニバーサルデザインの視点を生かした「授業構想シート」、「授業基盤・授業運営シート」を活用することで、全ての児童生徒が学習活動によりよく参加できる授業に近づきます。

※ 「授業構想シート」、「授業基盤・授業運営シート」の様式データは、付属のCDに収録しています。学校の実情に応じて付加修正して活用することも可能です。

### サポートヒントシート（追補版）の活用例

「サポートヒントシート（追補版）」は、日常の指導の中で特に気になる児童生徒に関して、特別支援教育の視点（特に気になる児童生徒の学習や行動の背景を教育的・心理学的な観点から捉え直す視点）から理解を深め、配慮事項を検討するためのものです。

○ 特に気になる児童生徒に関する教職員の共通理解を図るために、校内研修で活用する。

**おすすめ!**

⇒ 校内研修をパソコン室でしてみましょう！

◎ 1台のパソコンを教員2～3人で使って、話し合いながら入力するのがベストです。

○ 特に気になる児童生徒の状況を整理する際に活用する。

◎ 巡回相談（事前調査シート）や校内委員会の資料とすることもできます。

○ 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成に活用する。

○ 配慮を要する児童生徒に対する合理的配慮（特に授業場面における合理的配慮）を検討する際に活用する。

### サポートヒントシート（追補版）を活用する際の注意事項

- (1) 教職員が記入して使用するものです。児童生徒が記入するものではありません。
- (2) 障害を診断するためのものではありません。取扱いには十分注意してください。
- (3) 入力したデータは、厳正に管理してください。
- (4) 次のような課題には対応していません。

・発音 ・かん黙 ・知的な遅れ ・家庭環境の問題など

# サポートヒントシート（追補版）の使い方

サポートヒントシート（追補版）は、Microsoft Excel で作成しています。付属のCDをパソコンに入れて、パソコン上で入力して使います。

※ Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

## 手順1: シート①「気付きシート」で、気になる児童生徒の存在に気付く。

児童生徒の学習面や生活面の行動を見つめ直すと、改めて特に気になる児童生徒の存在に気付くことがあります。特に気になる場合には、シート②「行動理解シート」を使います。

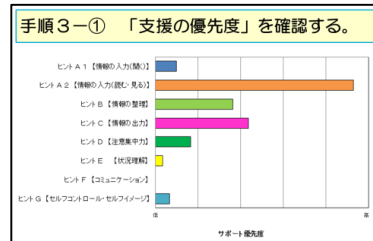
## 手順2: シート②「行動理解シート」で、気になる行動をチェックする。

気になる行動をチェックします。チェック項目はシート③「支援のヒントシート」に連動しており、気になる行動に対する「支援のヒント」が得られるようになっています。



## 手順3: シート③「支援のヒントシート」で、支援の方向性を確認する。

気になる行動の要因を分析して「サポート優先度」と「支援のヒント」を示しています。

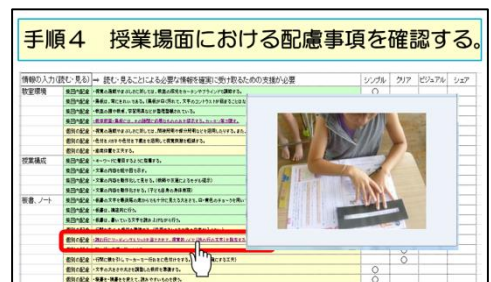


【支援のヒント】  
<授業の活動性についての支援>  
・授業、教材などに対する児童生徒の反応に対しては、刺激を取り除くことで環境を整える。  
<読むことへの支援>  
・文章の内容を結合などで示す。  
・キーワードに注目するように指導する。  
・電機をあてながら文章を読むように指導する。

「サポート優先度」は、支援を優先すべき項目を表します。また、「支援のヒント」を参考にして話し合うことで、実際の指導に役立てることができます。さらに、「詳細表示」ボタンをクリックすると「配慮事項シート」が表示されます。

## 手順4: シート④「配慮事項シート」で、授業場面における配慮事項を確認する。

「支援のヒント」をより具体化した配慮事項を示しています。配慮事項は、「集団への配慮」「個別の配慮」「個別指導」に分類され、授業におけるユニバーサルデザインの視点との関連付けを示しているので、当該学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに役立てることができます。項目（下線のある項目）をクリックすると写真が表示されるので、具体的な活用場面がイメージできます。



## サポートヒントシート（追補版）の活用イメージ

活用前に…「授業構想シート」, 「授業基盤・授業運営シート」で点検してみます。

### 活用例 1

職員の共通理解を図るとき。  
(校内研修等で実態把握を進めるとき。)

### 活用例 2

日常の指導の中で、学習面や生活面で特に気になる児童生徒に気付いたとき。

### 活用例 3

既に特に気になる児童生徒を把握しており、その状況を整理するとき。

#### <シート①「気付きシート」の入力>

行動面や対人関係面で特に気になる児童生徒について改めて確認します。学年会議や校内研修等の時間設定を行い、複数の教職員で共通理解を図りながら進めることが大切です。

#### <シート②「行動理解シート」の入力>

特に気になる児童生徒の行動をチェックし、学習面や生活面の傾向について把握します。このチェック項目は、シート③「支援のヒントシート」に連動しており、気になる行動に対する支援のヒントが得られるようになっています。

#### <シート③「支援のヒントシート」の確認>

気になる行動の要因を分析して「サポート優先度」と「支援のヒント」を示しています。「サポート優先度」は、支援を優先すべき項目を表します。また、「支援のヒント」を参考にして話し合うことで、実際の指導に役立てることができます。さらに、「詳細表示」ボタンをクリックするとシート④「配慮事項シート」が表示されます。

#### <シート④「授業における配慮事項シート」の確認>

授業における配慮事項を提案します。授業におけるユニバーサルデザインの視点との関連付けを示しているため、当該学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに役立てることができます。下線に示された項目をクリックすると授業のアイデアが写真で示されるので、具体的な活用場面がイメージできます。なお、実践の際は、「集団への配慮」→「個別の配慮」→「個別指導」の順で検討することが大切です。

# サポートヒントシート（追補版）を実践につなぐ

## 1 「個別の指導計画」に生かす

「個別の指導計画」とは、一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該幼児児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ計画のことです。

「サポートヒントシート（追補版）」により示された授業場面における配慮事項（集団への配慮・個別の配慮・個別指導）は、「個別の指導計画」の記載にそのまま役立ちます。

## 2 「個別の教育支援計画」に生かす

「個別の教育支援計画」とは、障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した的確な支援を目的として作成されるもので、家庭、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関との連携について書かれた計画のことです。

「サポートヒントシート（追補版）」により示された「支援のヒント」や「授業場面における配慮事項」は、関係機関との連携を図る際に役立ちます。

## 3 「ふくおか就学サポートノート」でつなぐ

「ふくおか就学サポートノート」は、関係者が当該児童生徒のことをよく理解し、当該児童生徒が一貫した継続性のある支援を受けることができるように作成するものです。

特に、効果的な対応策（○○○すれば、□□□できます。）を学校間で円滑に接続することを重要視しています。このことにより、当該児童生徒が入学してきた学校では、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成するまでのおよそ1～2か月の間、途切れることなく効果的に支援を行うことができるようになります。

「サポートヒントシート（追補版）」は、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校で共通に使用できるツールであるため、

「サポートヒントシート（追補版）」

に基づいて実践された効果的な配慮事項を「ふくおか就学サポートノート」

に記載すれば、円滑な学校間接続に役立ちます。

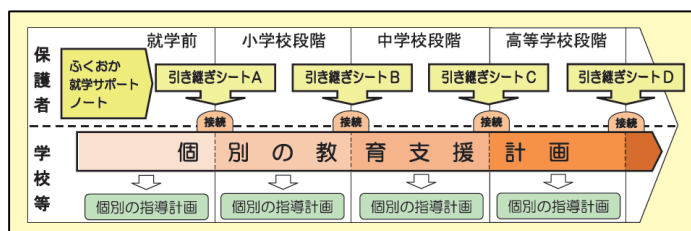


図 「ふくおか就学サポートノート」の活用イメージ





# サポートヒントシート（追補版）を活用した 配慮事例と授業のアイデア

- 情報の入力（聞く）に困難がある児童生徒
- 情報の入力（読む・見る）に困難がある児童生徒
- 情報の整理に困難がある児童生徒
- 情報の出力に困難がある児童生徒
- 注意集中に困難がある児童生徒
- 状況理解に困難がある児童生徒
- コミュニケーションに困難がある児童生徒
- セルフィメージ・セルフコントロールに困難がある児童生徒

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### A 1：情報の入力（聞く）に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 話を聞くことが苦手なため、指示の正確な理解や集中力の維持が難しい。
- グループ別での活動など、複数の児童生徒が同時にしゃべっている中で、正しく聞き取ることができない。

#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- 情報の入力（聞く）    情報の入力（読む・見る）    情報の整理
- 情報の出力    注意集中    状況理解    コミュニケーション
- セルフコントロール・セルフイメージ

#### 【授業における配慮の実例】

##### ○ プロジェクタの活用

学習活動の指示を与える際、口頭での指示に加え、その内容をプロジェクタで投影する。

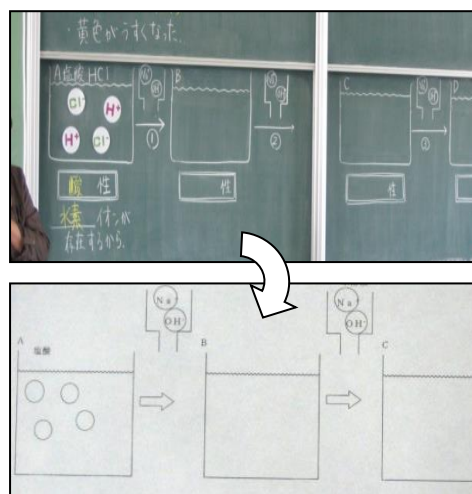
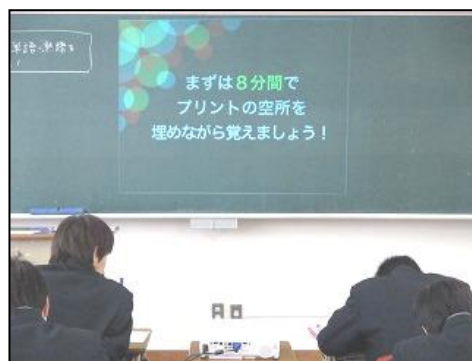
児童生徒は指示を的確に把握し、周囲に遅れることなく学習に取り組むことができる。

活動時間を投影すると、見通しをもって学習に取り組むことができる。また、学習活動の目的を投影すると学習意欲を喚起することができる。

その際、黒板に直接投影すれば、投影したものに書き込むこともできる。

##### ○ 板書＝ノート

板書をノート（学習プリント等）と同じにし、どこに何を書くのかが分かるようにする。口頭の指示理解が難しい場合でも、教師の板書の様子を見れば、教師に指示を聞き返すことなく、書く活動に入ることができる。



#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 全ての児童生徒が指示を的確に把握できるため、一斉に学習活動に取り組むことができる。このことにより、クラス全体の学習への雰囲気づくりにつながる。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### A 1：情報の入力（聞く）に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 集団内での聞き返しや聞き間違いが多いなど、適切な聞き取りが難しい。
- 周囲の物音や特定の音が気になったり、不快に聞こえたりして、学習に集中することが難しい。

#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |   |  |   |                                    |
|---|--|---|------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）         | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る）    | <input checked="" type="checkbox"/> 情報の整理 |                                    |
| <input type="checkbox"/> 情報の出力                        | <input checked="" type="checkbox"/> 注意集中 | <input type="checkbox"/> 状況理解             | <input type="checkbox"/> コミュニケーション |
| <input checked="" type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |  |   |                                    |

#### 【授業における配慮の実際】

##### ○ イヤマフ、耳栓

授業中、イヤマフや耳栓を使うことによって教室内外の物音や児童生徒が発表する声など、耳に入ってくる音量を小さくすることができる。これにより、学習や作業に集中することができる。



##### ○ レシーバ内蔵型受信機

「周囲の音は小さくしたいが、授業の内容は全部聞きたい。」という場合には、教師が送信機をつけ、送信機から優先的に送られてくる音声を児童生徒が補聴器型の受信機で聞くという方法がある。受信機先端の耳栓を密閉型にすると、周囲の声や物音も大幅



にカットすることができる。また、装着していない側の耳には、装着感が良く遮音効果の高い耳栓をつけたり、受信機の上からイヤマフを併用したりすることで、周囲の音に左右されず、同じ教室で授業を受けるとともに、教師の説明等を明瞭に聞くことができる。

#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- イヤマフやレシーバ内蔵型受信機をつけることで、本人が落ち着いて学習に取り組むことができるようになるとともに、周囲の児童生徒にとっても、当該の児童生徒に対してどのような配慮をすればよいかが伝わる。

## A 2：情報の入力（読む・見る）に困難がある児童生徒

### 【児童生徒の実態】

- 文章を読むことが苦手で、行を飛ばして読むことがある。
- 文字の読み間違いや書き間違いが多い。

### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- 情報の入力（聞く）
- 情報の入力（読む・見る）
- 情報の整理
- 情報の出力
- 注意集中
- 状況理解
- コミュニケーション
- セルフコントロール・セルフイメージ

### 【授業における配慮の実際】

#### ○ リーディング・スリット

教科書や資料、楽譜などを読む際に、リーディング・スリットを活用すると、文章を読む際の行の読み飛ばしがなくなり、集中して読めるようになる。



#### <音読の際にリーディング・スリットを活用した場合の効果>（小学校A児）

- ・ 1分間読みの速さ  
通常読み（10行）→ リーディング・スリットを使った読み（12行）
- ・ 1分間読みの間違い  
通常読み（9か所）→ リーディング・スリットを使った読み（4か所）  
※飛ばし読み無し  
家庭学習でも活用しており、保護者からも「効果があるので継続して使わせたい。」「家庭でも作成した。」との声をいただいた。

### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 学級の全ての児童生徒にリーディング・スリットを配布し、誰でも使用できるようにすることで、当該の児童生徒が気兼ねなく活用できるようになる。また、他の児童生徒もすすんで活用する姿が見られるようになる。（A児の在籍する学級の場合、全体の約30%の児童が読みや書きの学習に活用している。）
- 文字の大きさをそろえて書けない児童生徒に対しても、「文章を書くときの外枠」として使用させると、大きさをそろえて書く効果が期待される。



## A 2：情報の入力（読む・見る）に困難がある児童生徒

### 【児童生徒の実態】

- 細かいものや小さなもの、短時間で消えるものを視覚的にとらえることが難しい。

### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）         | <input checked="" type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る） | <input checked="" type="checkbox"/> 情報の整理 |
| <input type="checkbox"/> 情報の出力             | <input checked="" type="checkbox"/> 注意集中         | <input type="checkbox"/> コミュニケーション        |
| <input type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |  |   |

### 【授業における配慮の実際】

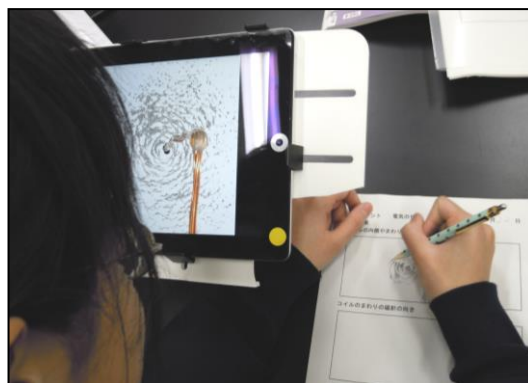
- タブレット端末のカメラ・ビデオ機能

<国語>

- ・ 文字を拡大することで、漢字の細部をとらえやすくなる。

<理科>

- ・ 観察したいものの細部を拡大して見ることができる。（顕微鏡や望遠鏡を使った観察では、接眼レンズを直接覗くよりも見やすくなる。また、児童生徒の見え方や見ているものを教師が確認することができる。）
- ・ ガスバーナーなどを使用する実験において、児童生徒が顔を近づけることなく安全に実験できる。
- ・ 瞬間的に起こる現象をスローモーション再生や静止画で繰り返し見ることができる。



### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 他教科においても応用できる。
  - ・ 数学でグラフや表の細かな数値を読み取る。
  - ・ 家庭科で教師が手元の作業手本を見せる（例えば、針を使う作業など）。
- 見せたいものを焦点化できるため、困難のある児童生徒への提示と併せて、学級全体にもプロジェクターで提示することで、全員の児童生徒に対して理解を促すことにつながる。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### B：情報の整理に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 出来事や自分の考えを整理して話すことが苦手である。
- 計算やノートをとる作業などが雑で、ケアレスミスが多い。

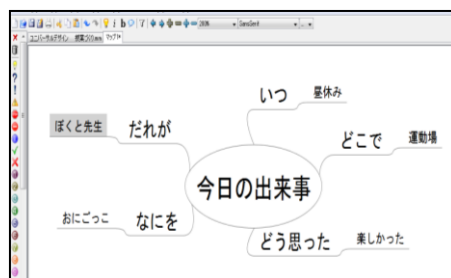
#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- 情報の入力（聞く）
- 情報の入力（読む・見る）
- 情報の整理
- 情報の出力
- 注意集中
- 状況理解
- コミュニケーション
- セルフコントロール・セルフイメージ

#### 【授業における配慮の実際】

##### ○ マッピング・ソフト

パソコンやタブレット端末のマッピング・ソフトを活用して、話す内容を自分でまとめさせる。



##### ○ 付箋紙、ホワイトボード

自分の考えをキーワードで整理してホワイトボードに書かせたり、カテゴリーごとに色の違う付箋に書かせたりすることで、考えを整理できる。



##### ○ 罫線やマス目のついたノートや補助シート

ノートが雑な場合は、児童生徒に合った大きさの罫線やマス目を活用させて、枠の中に丁寧に書かせるようにする。計算など手順どおりに行わないと正解できない課題は、補助シートを使って雑にならないようにする。



#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- マッピング・ソフトや付箋紙は、他の児童とのコミュニケーションツールとなる。
- ノートや補助シートは学級全体で共有し、誰でも使用できるようにすると、困難のある児童生徒が抵抗なく使える。また、他の困難がある児童生徒にも有効である。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### C：情報の出力に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

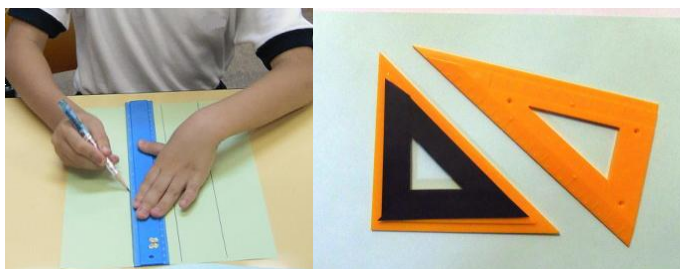
- 定規やコンパスなどを使った細かい作業がうまくできない。
- 身体全体や両手を協応させる動作に困難があるので、音楽や体育が苦手である。

#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

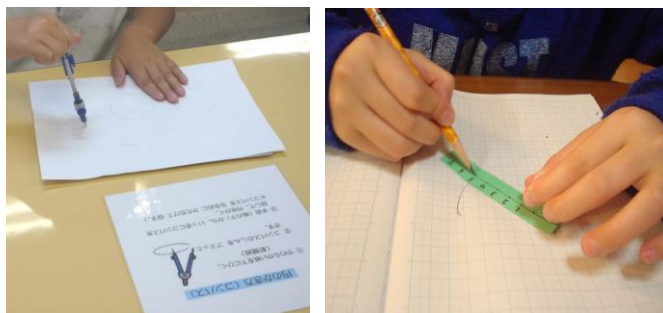
- |   |                                       |                                |
|---|---------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）                    | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る） | <input type="checkbox"/> 情報の整理 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 情報の出力             | <input type="checkbox"/> 注意集中         | <input type="checkbox"/> 状況理解  |
| <input checked="" type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |                                       |                                |

#### 【授業における配慮の実際】

- 定規
  - ・ 定規を手で押さえるときに、指をL字型にするように指導する。
  - ・ 定規に滑り止め加工（シリコンを貼り付ける）して、使用させる。  
→市販品もあります。
  - ・ 短い定規を使用させる。



- コンパス
  - ・ 新聞紙などのやわらかい紙を、下に敷くように指導する。
  - ・ コンパスのつまみ部分に、滑り止め加工（シリコンを貼り付ける）して、使用させる。→市販品もあります。
  - ・ 定規型のコンパス（紙コンパス等、軸を押しピンでとめて操作するもの）を使用させる。



#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 定規等については、当該の児童生徒に個人的に持たせるだけでなく、教師がいくつかのパターンのものを用意しておくことで、当該の児童生徒に合った教具の選定ができる。また、最初の取り掛かりとして使用させることで、段階的に上手に使えるようになる児童生徒もいる。

C：情報の出力に困難がある児童生徒

【児童生徒の実態】

- 身体全体や両手を協応させる動作が苦手なので、音楽や体育が苦手である。

【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |   |                                       |                                |
|---|---------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）                    | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る） | <input type="checkbox"/> 情報の整理 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 情報の出力             | <input type="checkbox"/> 注意集中         | <input type="checkbox"/> 状況理解  |
| <input checked="" type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ | <input type="checkbox"/> コミュニケーション    |                                |

【授業における配慮の実際】

<音楽>

○ リコーダー

- やや厚めの丸穴シールを貼る。  
指で押さえた時に穴をふさぎやすくなり、音が出しやすくなる。児童生徒も、押さえたことを確実に感じ取りやすくなる。
- 穴の位置が調節できるリコーダーを使い、ふさぎやすい場所を調整する。→市販品があります。



<体育>

○ ビデオ、タブレット端末

- 身体を動かす活動の中で、ビデオを用いて示範の動きを見せ、動きのイメージを捉えさせる。
- 実際の動きをビデオカメラで撮影し、再生して見ることで、自分の動きを振り返ることができ、よりよい動きへと改善を図るのに役立つ。



【配慮を行うことで期待される効果】

- リコーダーについては、複数用意し、当該の児童生徒以外にもうまくできない児童生徒がいた場合、最初の取り掛かりとして使用させると段階的にできるようになる。
- ビデオについては、全員で共有し見合うことで、手本の動きのよさやお互いの改善点を話し合うことができる。



## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### D：注意集中に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 注意集中の時間が短く、学習が持続できない。
- 時間内で行動したり、時間配分したりすることが適切にできない。

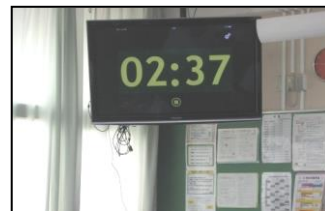
#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- 情報の入力（聞く）
- 情報の入力（読む・見る）
- 情報の整理
- 情報の出力
- 注意集中
- 状況理解
- コミュニケーション
- セルフコントロール・セルフイメージ

#### 【授業における配慮の実際】

##### ○ 体育用デジタルタイマー

活動の残り時間が分かるように、教室のテレビにデジタルタイマーを映している。右の写真は、体育の授業で使用するデジタルタイマーの動きを、数パター



ーン録画したものである。このデータをSDカードに入れ、各教室のテレビに差し込んでおくと、どの教科の学習にも利用することができる。すぐに活動に飽きてしまう児童生徒も、残り時間が分かるので、最後まで取り組むことができる。

##### ○ タブレット端末のタイマー・アプリ

タブレット端末などのアプリにも様々なタイマーがあるので、用途や児童生徒の実態に合わせて活用すると効果的である。



##### ○ その他のタイマー

市販のタイマー（市販品の中にも、残り時間を視覚的に提示できる製品もあります。）を使ったり、パソコン用のプレゼンテーション・ソフトで自作したりすると、時間提示を手軽に行うことができる。

#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 自分の取組時間が分かるようになることで、計算が速くなるように努力したり、あとのくらい作業できるか予想を立てて取り組んだりできるようになる。また、表示された時間内は静かに取り組むようになり、授業にメリハリがつくとともに授業態度の向上が見られるようになる。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### D：注意集中に困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 刺激に反応し、注意の転動が見られる。長時間集中して活動に取り組むことが難しい。
- 着席していても落ち着かない様子であり、座っている姿勢も悪い。

#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |  |  |                                |
|--|--|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）         | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る）    | <input type="checkbox"/> 情報の整理 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 情報の出力  | <input checked="" type="checkbox"/> 注意集中 | <input type="checkbox"/> 状況理解  |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーション         |  |                                |
| <input type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |  |                                |

#### 【授業における配慮の実際】

##### ○ 絵カード

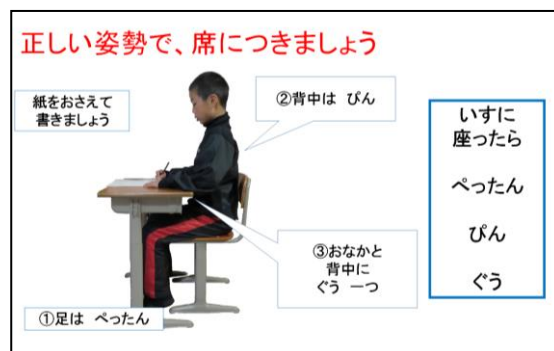
「正しい姿勢」や「静かにする」を意識させるため、教卓の前面に絵カードを掲示することで、当該の児童生徒が絵を見て意識できるようにする。

##### ○ 姿勢保持グッズ

フロアマットで手作りした座布団や滑り止めシートを椅子に敷いて座る。ガムテープと雑誌で手作りした足置場に足を置く。体がずり落ちることがなくなり、正しい姿勢が持続できるので、学習への集中時間が長くなる。

#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 他の児童生徒が、注意集中が途切れがちな児童生徒に対して「注意する」→「注意しすぎて攻撃的になる」というかわり方から、「注意を促しながらも、できているときは褒める。」「こんな風にしたらできる。」という温かいかわり方になる。
- 当該の児童生徒だけでなく、他の児童生徒も使用できるように複数用意する。そのことで、その子だけを特別扱いするのではなく、困っている人は皆、自分に合った教材・教具を用いたり、できる方法をとったりしてよいのだという考えを学級全体に定着できる。



# サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

## E：状況理解に困難がある児童生徒

### 【児童生徒の実態】

- 状況の理解が難しく、見通しがもちにくい。
- 課題の始めと終わりや今どこをやっているのかが分からない。

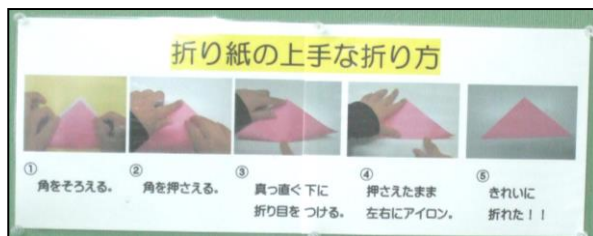
### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

情報の入力（聞く）    情報の入力（読む・見る）    情報の整理  
情報の出力    注意集中    状況理解    コミュニケーション  
セルフコントロール・セルフイメージ

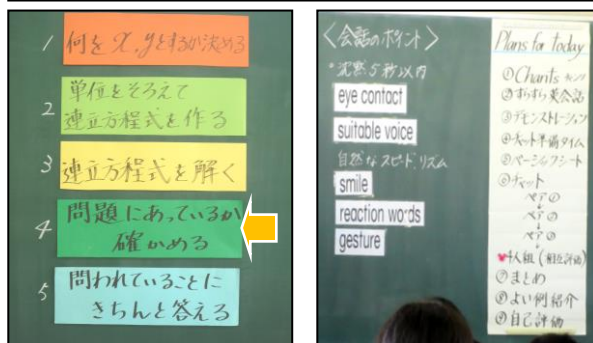
### 【授業における配慮の実際】

#### ○ 手順表

活動内容、方法について、写真や文章で手順を示したものを準備すると、教師に何度も尋ねに来ることが減り、自分から活動を進めることができるようになる。

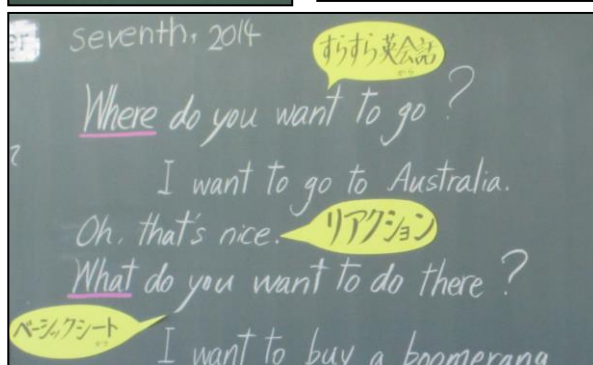


黒板にこれからの予定や学習の流れを板書したり、当該の児童生徒に手順表を渡し、机の上に置かせたりして確認させる。



#### ○ 矢印や目印

今やっている活動や特に重要な事項、注意事項に目立つ黄色や赤の矢印のマークや吹き出しを付けて示す。一目で注目すべきところが分かり、学習に取り組みやすくなる。



### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 困難のある児童生徒だけでなく、全員が学習の見通しをもつことができるため、教師の指示や説明にかかる時間を減らすことができる。そのため、学級全体が落ち着いて学習に取り組めるようになる。また、ポイントについても全員で押さえることができるため、学習内容の理解のしやすさにつながっていく。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### F：コミュニケーションに困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 話題になっている文脈とずれた発言をしてしまう。
- 人と関わるためのルールが定着しにくく、うまくコミュニケーションがとれない。

#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |  |                                       |   |
|--|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）         | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る） | <input checked="" type="checkbox"/> 情報の整理     |
| <input type="checkbox"/> 情報の出力             | <input type="checkbox"/> 注意集中         | <input checked="" type="checkbox"/> 状況理解      |
| <input type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |                                       | <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション |

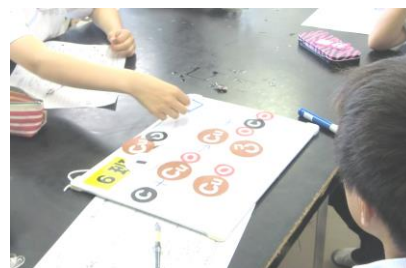
#### 【授業における配慮の実際】

- 話し合い活動の焦点化・共有化

##### <理科>

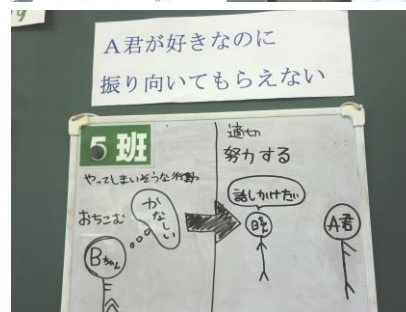
- 元素記号カードとホワイトボード

見えない化学反応の仕組みについて、元素記号カードで図示し、ホワイトボードを用いて話し合わせる。グループの考えの整理や共有がしやすくなる。



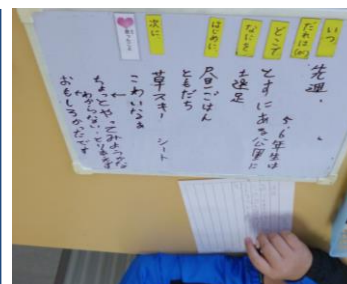
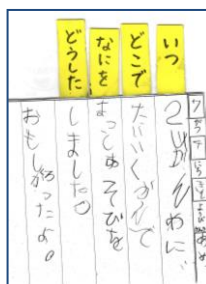
##### <学級活動等>

- ある場面におけるお互いの気持ちなどをホワイトボードに書いて、共有化する。



- 作文カード

「いつ」「だれが」「どこで」「なにを」「どうした」について、自分の考えをカードにそってホワイトボードに整理、説明させる。



#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- 当該の児童生徒とのコミュニケーションがとりやすくなることで、同じグループの児童生徒としての意見がまとまるようになる。
- 気持ちや考えの視覚化は、話し合いの観点が整理され、学級全体の話し合い活動も深まるようになる。

## サポートヒントシート（追補版）を活用した配慮事例と授業のアイデア

### G：セルフイメージ・セルフコントロールに困難がある児童生徒

#### 【児童生徒の実態】

- 自分自身の行動を客観的に捉えたり、振り返ったりすることが難しく、場に合わない行動をとることがある。
- 成功体験が少なく、自分に自信がない。

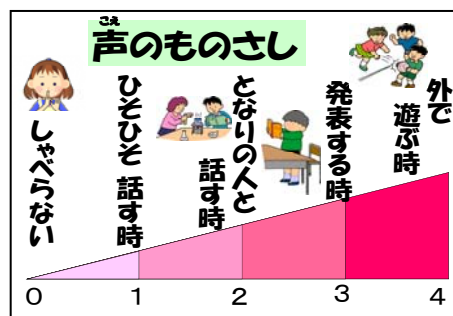
#### 【主な課題（サポートヒントシート追補版）】

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> 情報の入力（聞く）                    | <input type="checkbox"/> 情報の入力（読む・見る）    | <input type="checkbox"/> 情報の整理                |
| <input type="checkbox"/> 情報の出力                        | <input checked="" type="checkbox"/> 注意集中 | <input checked="" type="checkbox"/> 状況理解      |
| <input checked="" type="checkbox"/> セルフコントロール・セルフイメージ |  | <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション |

#### 【授業における配慮の実例】

##### ○ 声のものさし

「小さな声で話さない」「もっと大きな声で」のように言葉での指示ではなく、声の大きさを図示する。声の大きさを数字や具体的な言葉で示すことで、自分の出す声の大きさを調整できる。



##### ○ 指示表

「何をどのようにするか」を写真やイラストなどで具体的に示し、見ることで手順が分かるようにする。一つ一つを確認しないと不安だったり、自信がもてなかったりする児童生徒にとっては、「自分で最後までできた」という成功体験につなげることができる。



##### ○ 具体的な言葉での賞賛

小さな出来事であっても、教師に賞賛されることは、とてもうれしく、児童生徒の自信につながる。児童生徒の実態によっては、シールなどの具体物も有効である。

#### 【配慮を行うことで期待される効果】

- クラス全体に提示し、常に確認することができたり、認められる雰囲気をつくったりすることで、当該の児童生徒だけでなく、他の児童生徒にも学習のルールや学び方が定着し、学級全体が落ち着いてくる。

## <コラム>

### 「漢字が苦手な児童生徒」について

漢字を覚えたり正確に書いたりすることが苦手な児童生徒の苦手さの原因は、

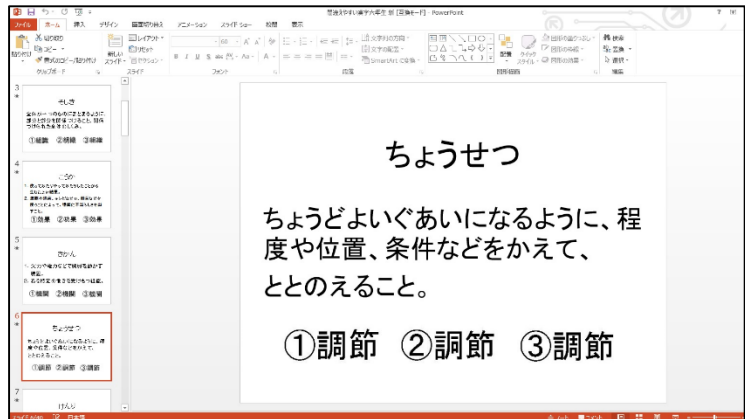
- ◇ 形や上下左右などの位置関係をとらえる視覚認知
- ◇ 見た形を正確に記憶する視覚的記憶
- ◇ 視線を黒板（手本）とノートの間でスムーズに動かすための眼球運動
- ◇ 手先の不器用さ

など様々なものが考えられます。苦手さの傾向からその原因を考えた上で、本人が覚えやすい、書きやすい方法を一緒に発見することが大切です。

#### 【視覚認知に課題がある場合】

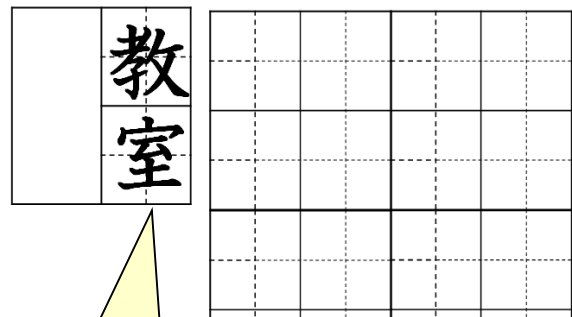
- 漢字の形を言語化することで視覚認知の苦手さを補います。
  - ・カタカナや部首，基本的な漢字（木，日など）を習得させ，それらを部品とした組み合わせを言語情報と併せて指導する。  
(例) 枝 = きへん，なべぶた，ハ，ばってん
  - ・書き順どおりに唱えて覚えさせる。  
(例) 頭 = 一 ロ ソ ー ー ノ 目 ハ

- 似たような漢字の中から正解を選ばせ，細部を見分けることができるようにします（右図は，プレゼンテーションソフトを用いた問題提示の例）。



#### 【視覚的記憶や眼球運動に課題がある場合】

- 手本とノートをできるだけ近くにして視覚的記憶や眼球運動の苦手さを補います。ノートのマスと同じものにした手本を作成し，常に真横に手本があるようにすると間違った形で覚えることを防げます。



#### <ポイント>

- ・手本の大きさは使用するノートの枠に合わせる。
- ・手本にもノートと同じ補助線を入れる。